
家路

幸紗

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

家路

【Nコード】

N4122D

【作者名】

幸紗

【あらすじ】

序章では死のうとしていた榊の朝の風景。

1章―1

外は雨が降っている。

目の前のブラウン管には、今人気の女子アナが今日の天気予報をしている。

『群馬では昨日からの雨が夕方まで続きますが、明日からのゴールデンウィークは快晴が続くでしょう』

そうか、明日から休みか。コーヒーを飲みながら榊蓮さかき れんは時計を見た。

6時半、今年で中2になる息子の颯太が起きてくる時間だ。小学生の頃からやっているサッカーは中学生になった今でも続けている。来月試合があるらしく、毎日6時半には起きてくる。

「んはよ」後ろから声がした。「おう、今日もやるのか？雨らしいぞ」

と窓を指差した。予報どおり、昨日から降り続けている雨は、まだまだ止みそうに無い。

「ううん。今日はさすがに出来ないって、さっきメール来てた。でも、いつもこの時間に起きてたから、体内時計で起きちゃったんだよ」

「だよな、この雨じゃな。」そう言いながら、もう一度時計を見た。6時48分。

「やべ、バス来る。そろそろ行くわ」そう言って蓮は、コーヒーを流し込んだ。

「うむ、頑張つて来てくれたまえ」颯太は、敬礼のポーズをしながらニツコリと笑った。

敬礼のポーズを返す。警察官だった颯太の祖父が小さい頃から好きだった颯太は、祖父がなくなった今でも敬礼のポーズをよくする。

バス停には、いつも通り5・6人のスーツ姿の男性と学生服の女の子の姿があった。

ギリギリ間に合った。バスはまだ来ていない。雨の日は車の免許を持ってる人が羨ましくなる。弱視のため、車はおろか、原チャリの免許も取れないのだ。両手の風呂敷が重い。

榊の仕事である判事のいつもの荷物と言えば、紫の風呂敷である。中には、裁判で使う資料で、公判前に読んでおかないといけないものだ。

空の谷間から、太陽が顔をのぞかせた。それとほぼ同時に、バスが停留所に滑り込んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4122d/>

家路

2011年1月19日05時58分発行